

北陸地域でこの 35 年に発生した地震
 Microearthquakes occurring in the Hokuriku region in these 35 years

○竹内文朗・澁谷拓郎・平野憲雄・松村一男・大谷文夫・岡本拓夫
 ○Fumiaki TAKEUCHI, Takuo SHIBUTANI, Norio HIRANO,
 Kazuo MATSUMURA, Fumio OHYA, Takuo OKAMOTO

We have been observing Microearthquakes in the Hokuriku region from 1976 to the present, that is for 35 years. Here we show some features of the earthquakes. The used data are the hypocenter values, using from the thanks data (compiled the hypocenter data from Hokuriku, Abuyama, Kamitakara, and Tottori observatories for 1976 to 1998), and also from the Ickigenka data by the JMA(Japan Meteorological Agency). We show you some features from those earthquakes.

概要

我々は北陸観測所の微小地震観測データについてこれまでにまとめて来た。現在その 35 年分のデータが蓄積されたので、まとめておきたい。

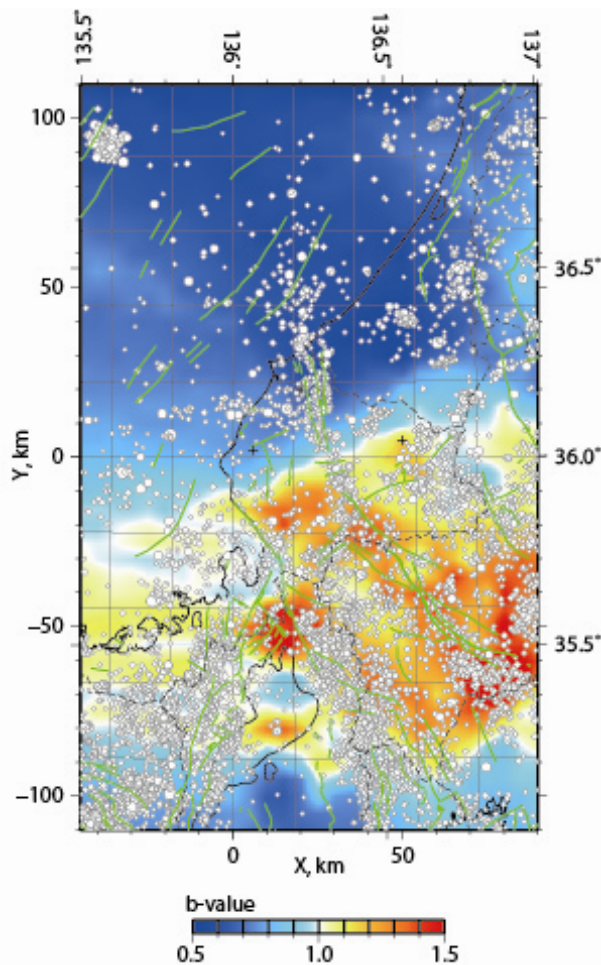


Fig.1 北陸、近畿北部の地震活動と b 値

Fig.1 は、1976 年～2010 年の北緯 35° ～37° 、東経 135.5° ～137° の $Mag \geq 2.0$ の分布（白丸）と、同期の b 値のカラー表示（ $Mag \geq 1.5$ を対象）である。陸域は地震の検知率が高く図の信頼性も高い。地震分布は、濃尾地震、福井地震、等の余震らしき域に多く見られる。b 値は、図面のほぼ上半分と、琵琶湖湖西域が低い値を示す。逆に湖東の柳ヶ瀬断層域から東方の濃尾地震域にかけては b 値が高い。断層とも一致する傾向もあるが、単純ではない。

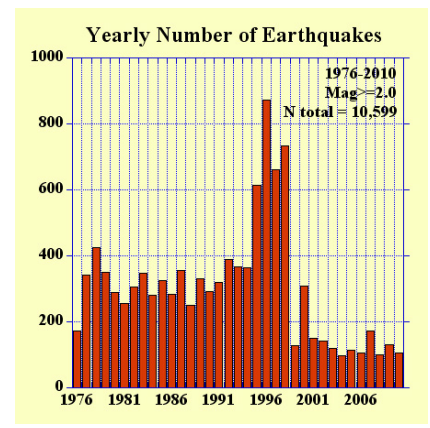


Fig.2 図 (Fig.1) の地震のマグニチュード分布
 Fig.2 は左図の域の微小地震発生個数を表す。ここ十年は極めて少ない様である。図は $M \geq 2.0$ の地震が対象だが、これを $M \geq 1.0$ とすると逆に 1990 年代後半以後、観測点が格段に増加し地震数は以前を大きく上回る。
 この様な点につき、発表予定である。